

(別紙5)

補助事業番号 28-1-061  
補助事業名 平成28年度難病及び希少難病に関する研究機器（医療機器）の整備補助事業  
補助事業者名 公益財団法人日本心臓血圧研究振興会

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

難病である心筋症の管理では、薬による治療のほか、心臓リハビリテーションや和温療法、デバイス治療など、多方面からのアプローチが必要になります。心筋症の病状を悪化させる心房細動に関しては、根本的な治療が理想的です。難病である心筋症、とくに心臓のポンプ機能の低下した重症の心筋症において、カテーテル心筋冷凍焼灼術が、従来の高周波エネルギーを用いた治療と比べ、安全かつ有効な治療手段であることを検証し、その結果を広く世間に発信することが本研究の目的となります。

### (2) 実施内容

物品名：心筋症におけるカテーテル冷凍焼灼術による治療システム

数量：一式

金額：27,146,880円

(URL)：[http://www.hq.heart.or.jp/?page\\_id=46](http://www.hq.heart.or.jp/?page_id=46)

難病である特発性心筋症（肥大型心筋症、拡張型心筋症）では高率に心房細動を合併する。心筋症に心房細動が合併すると容易に心不全増悪をきたし、再入院などのイベント増加の要因となっている。心筋症に対する薬物ならびに非薬物療法に併せて、心房細動に対する根治的な治療が必要となる。従来の高周波心筋焼灼術では、生理食塩水負荷が必須であり、長時間の手技、高い再発率などの問題があり難渋例も少なくなかった。冷凍凝固心筋焼灼術では生理食塩水負荷がなく、短時間で均一な焼灼層が作成され、より確実な電氣的肺静脈隔離が可能である。心筋症症例が多い当施設において、冷凍凝固心筋焼灼術による心房細動アブレーションを導入し、高周波心筋焼灼術と比較しての、有効性や安全性を評価することは重要な研究課題である。

(別紙5)



(Cryo Console 106A3)



(食道モニタリングシステム)

(別紙5)

## 2 予想される事業実施効果

難病である心筋症に合併する心房細動に対し、冷凍凝固心筋焼灼術が従来の高周波心筋焼灼術と比べ、有効かつ安全な方法であることを検証し、本システムが重症心筋症に対するトータルマネジメントにおいて、有用な機器だと確認できる可能性がある。また手技時間の短縮により心房細動カテーテル治療の症例数の増加、必要な症例に早期に対応可能となることが予想される。

## 3 印刷物等

本事業に係る印刷物等

ポスター（院内掲示）

ホームページ ([http://www.hq.heart.or.jp/?page\\_id=46](http://www.hq.heart.or.jp/?page_id=46))

平成28年度事業報告書（平成29年8月頃完成）

院内ホームページ（掲載中）

榊原記念病院待合室大型モニター2台（放映中）

## 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人日本心臓血圧研究振興会（コウエキザイダンホウジンニホンシンゾウケツアツケンキュウシンコウカイ）

住 所： 〒162-0054

東京都新宿区河田町8番1号

代 表 者： 理事長 細田 瑛一（ホソダサイイチ）

担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）

担 当 者 名： 課長補佐 数見由紀（カズミユキ）

電 話 番 号： 03-3357-7643

F A X： 03-3353-8090

E - m a i l： kazumi@hq.heart.or.jp

U R L： <http://www.hq.heart.or.jp/>